私を変えた先生との出会い

「その首どうしたの？やけど？」

これは私が初めて会う人からよく聞かれる言葉です。私の首には生まれたときから黒いアザがあります。私はこの首についた黒いアザが大嫌いでした。初対面の人から「黒いの何？」「痛そう。」と物珍しそうに言われたり、かわいそうといった目で見られたりすることも少なくありません。私はこのことで何度も傷つき、このアザを常にネガティブにとらえ、いつか消したいとずっと思っていました。

しかし、私はある先生のおかげでその思いが薄れ、次第に消えていったのです。それは小学校５年生の時でした。当時、私のクラスには外国人とのハーフの女の子がいました。その子が肌の色ことで嫌な思いをしたことがきっかけで、私たちの担任の先生は、私たちクラスメイトに特別授業をしてくださいました。先生は、そこで私たちに「人は誰しも何かが違うもの。人と違うことを恥ずかしいと思わなくていい。その人だけの個性。」といった内容のことを話してくださったのです。そして先生は、その時に私の首のアザについても触れました。私が気にしていると言葉にしたことはなかったのに、先生はおそらく私の気持ちに気付いてくださっていたのだと思います。それが嬉しかったこともあり、私はその時から首のアザをほとんど気にしなくなりました。さらに、自分しか持っていない特別なものとしてポジティブにとらえるようになりました。

今でもやはり初対面の人の視線が首にあることを感じたり、「そこどうしたの？」と指を差され尋ねられることもあります。しかし、もう傷つくことはありません。こんな心情になれているのも、あの先生のあの授業のおかげです。本当に感謝しています。そして教員を目指している私は、私自身が教員になったときにも、あのような授業をしたいと考えています。

大田　千裕

（大学生）